

新潟脳神経研究会特別例会の御案内

日時：令和6年9月11日(水) 17:00～18:00

場所：中田記念ホール 脳研究所 旭町総合研究実験棟
(統合脳機能研究センター)6階

アルツハイマー病の新たな治療標的:

グリンファティックシステムの役割とその機能不全



山田 薫 先生

東京大学
大学院医学系研究科神経病理学分野・助教

アルツハイマー病 (AD) は、病理学的には、 $A\beta$ とタウという2種類の病原性タンパク質の蓄積が特徴であり、これが疾患の発症につながるカスケードを引き起こします。これらのタンパク質の適切な濃度はプロテオスタシスによって維持されており、クリアランスメカニズムの障害がこのバランスを崩すことで、病理の進行を促進し、ADの発症リスクを高めると考えられます。これまでこれらのタンパク質のクリアランスには、酵素による分解、グリア細胞による貪食、血液脳関門 (BBB) を介した輸送が関与していることが示唆されてきました。これに加えて近年、グリンファティックシステムが、これらの病原性タンパク質を除去する重要なクリアランス経路の1つとして注目されています。グリンファティックシステムは、 $A\beta$ とタウの除去に寄与しており、ADにおけるその機能不全がADの潜在的な要因として示唆されています。しかし、グリンファティックシステムの機能不全とADとの関連性を理解するためのメカニズムは、未だ完全には解明されていません。

本発表では、ADのマウスモデルを用いて、AD病理とグリンファティックシステムの機能不全との関連性を検討した我々の取り組みについて紹介するとともに、グリンファティックシステムに関する最新の知見、創薬の可能性についても概説したいと考えています。

どうぞ奮ってご参加ください。(担当：脳研究所 統合脳機能研究センター)

